

日本家庭医療学会会報

第56号

発行日 2006年7月1日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : jafm@a-youme.jp

第21回日本家庭医療学会学術集会報告

第21回日本家庭医療学会学術集会を終えて

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科総合診療学
大園 恵幸

第21回日本家庭医療学会学術集会を2006年5月13日、14日の両日に名古屋国際会議場で開催いたしました。今回の学術集会は、第29回日本プライマリ・ケア学会(津田 司会長)および日本総合診療医学会臨床研究インタレストグループ(尾藤誠司世話人)と合同でプライマリ・ケア関連学会連合学術会議として行いました。

本学術集会では、皆様のおかげを持ちまして連合学術会議として1,617名の皆様にご参加頂き大変盛況のうちに学術集会を終えることができ山田隆司代表理事を初めとする理事の先生方、会員の皆様、事務局のスタッフの方に感謝いたします。

今回の学術集会では「地域ニーズに対応した家庭医療の展開」をテーマにプログラムを組ませて頂きまし

た。特に日本家庭医療学会が「後期研修プログラム」を作成し、日本における家庭医療の展開にとって大きな歩みとなるべく、竹村洋典副代表理事にシンポジウム1「日本に求められる家庭医とは」を企画して頂きました。シンポジウムの内容も山田代表理事の「日本家庭医療学会後期研修プログラム」の呈示を皮切りに各代表による熱き討論が展開され、特にメディア代表および行政代表を交え、学会内のみならず世間に日本に求められる家庭医とは何かを問いかけて議論した大変有意義なシンポジウムであったと感じました。またシンポジウム2として、「家庭医療指導医をどのように養成するか」というテーマで岡田先生にお願いいたしました。シンポジウムでは、家庭医指導医として活躍されている先生方、指導がうまくいかなかった研修医の例も含め活発な討論が行われ、特にプライマリ・ケア学会員や開業医の家庭医療指導医への取り組みの点で議論がなされいくつか問題点も浮き彫りにな
(次ページにつづく)

この号の主な内容

第21回日本家庭医療学会学術集会報告		第18回医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー	13
第21回日本家庭医療学会学術集会を終えて	1	第14回家庭医の生涯教育のためのワークショップ	14
シンポジウム1「日本で求められる家庭医とは」	3	第2回若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー	14
シンポジウム3「若手家庭医はどのように進路を選び、どこで研修をしているのか」	3	日本家庭医療学会認定後期研修プログラムについて 重要なお知らせ	14
学会賞の総括	4	家庭医療後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップ	15
日本家庭医療学会 理事会 議事録	5	第22回日本家庭医療学会学術集会・総会	16
役員選挙開票結果・指名理事決定のお知らせ	7	倫理委員会の方針が改訂されました	17
日本家庭医療学会 選挙管理委員会 議事録	8	若手家庭医部会のロゴマーク募集	18
新役員からひとこと	8	平成17年度日本家庭医療学会研究補助金選考結果	18
若手家庭医部会 役員選挙 開票結果	12	会員専用ページ開設のお知らせ	18
若手家庭医部会新役員からひとこと	12	生涯教育コーナー	19
若手家庭医部会正式承認後の一年を振り返って	12		

第21回日本家庭医療学会総会

プログラム

期 日 平成18年5月13日(土)~14日(日)

場 所 名古屋国際会議場

参加者数 1,617名

1日目 5月13日(土)10:30~18:10

招待講演 Family physician training system
in the Netherlands

演者 Ben J.A.M. Bottema / 座長 木戸 友幸

会長講演 地域ニーズに対応した家庭医療の展開

演者 大園 恵幸 / 座長 山田 隆司

シンポジウム1 日本で求められる家庭医とは

座長 竹村 洋典

教育講演1 Caring for the Family :

Family Medicine Leading Health Care
Japan Academy of Family Physicians

演者 Jeannette E. South-Paul / 座長 岡田 唯男

ポスターセッション1 症例検討 座長 角 誠二郎

ポスターセッション2 臨床研究 座長 酒見 英太

ポスターセッション3 卒前・卒後教育 座長 佐藤 寿一

2日目 5月14日(日)8:15~16:00

教育講演2 終末期と法

演者 稲葉 一人 / 座長 白浜 雅司

学会賞候補演題発表 座長 亀谷 学

シンポジウム2 家庭医療指導医をどのように養成するか

座長 岡田 唯男

シンポジウム3 若手家庭医はどのように進路を選び、
どこで研修をしているのか?

座長 山下 大輔

一般口演1 臨床研究 座長 横林 賢一

一般口演2 卒前・卒後教育1 座長 松下 明

一般口演3 卒前・卒後教育2 座長 三ツ浪健一

ポスターセッション4 地域医療・連携

座長 福本 陽平

ポスターセッション5 診療手技・保健・高齢者

座長 藤沼 康樹

研修プログラム 座長 横谷 省治

り3学会でも話し合いを続けていくことの重要性を感じました。

シンポジウム3では、本学会の原動力でもある若手家庭医部会を中心とした若手医師によるシンポジウムを企画し、若手家庭医後期研修の現場からの声として若手家庭医部会代表の山下先生をお願いいたしました。シンポジウムは、会場が一杯になるほどの盛況でした。今後学会運営も益々若手家庭医が核となって進んでいくことと思われます。

招待講演では、オランダより家庭医療研修センター長を務めておられるポッテマ先生をお呼びしてオランダの家庭医療及び研修システムに関しご講演を頂き、外国においてもそれぞれの地域ニーズに対応し家庭医療を展開してきていることを実感いたしました。

また教育講演では、米国ピッツバーグ家庭医療学科教授サウスポール先生により、女性として米国家庭医療のリーダーとして家庭医療の展開及び研修についての講演を頂き、朝早い時間にもかかわらず多くの参加者を得て有意義な教育講演となりました。さらに教育講演として白浜先生のご推薦で稲葉一人先生に「終末期と法」のタイトルにてご講演を頂きました。講演はタイムリーな内容でもあり大変盛況で講演後も活発な質問、討論が行われました。

また本学術集会から、日本家庭医療学会賞が受賞されることとなり、山本和利委員長が中心となり学会賞候補演題の選定に続き、学会での発表及び理事による採点が行われました。当日学会賞授賞式が行われ、山田代表理事より学会賞を受賞された竹中裕昭先生に楯(後日)と賞品が送られ、葛西副代表理事、岡田理事による受賞に至った講評を頂き終了いたしました。

一般演題(口演、ポスター)、研修プログラム紹介も併せて55題応募頂き、いずれの会場も入りきれない参加者があり大変活発な討論が行われました。一般演題でも家庭医療学会会員のみならず3学会の参加者の皆さんによる有意義な討論が行われました。

3学会共通プログラムとしてワークショップを16企画し、いずれも定員に達し、明日からの診療に役立つワークショップをコーディネートして頂きました。特にコーディネーターの先生方には厚く御礼申し上げます。ランチョンセミナー、展示も従来の学会と違い、津田 司先生の発案もあり明日からの診療に役立つような形式で企画され、また市民公開講座「ストレス社会とうつ」を開催いたしました。

以上3学会同時開催でもあり問題点もいくつかありましたが、私にとっても有意義な学会となりこれも皆さまのご協力ご支援の賜物と存じます、本当にありがとうございました。

シンポジウム1

「日本で求められる家庭医とは」
日本は家庭医療後期研修プログラムをどう見るか

座長 竹村 洋典

(三重大学医学部附属病院総合診療部)

日本家庭医療学会は、地域の人々に均一に質が高い家庭医を提供できるように、認定後期研修プログラム(バージョン1.0)を策定しました。現在は、それを具現化するために各施設のプログラム認定作業やプログラムでの指導医養成の基盤作りを進めております。ところで、そのプログラムが、地域の人々のニーズに合致しているか否かは、はっきりとしておりません。家庭医療が地域の人々のニーズを原動力に発展するとすれば、それを明確にする必要があると思われまふ。本シンポジウムはその一つの方法として、開催されました。

市民の声に常に接していらっしゃる末吉興一北九州市長と朝日新聞社の出河雅彦様が市民代表のシンポジストとしてご参加いただき、また、学会の代表として山田隆司代表理事、さらに大学代表：山本和利先生、診療所(都市)代表：武田伸二先生、診療所(僻地)代表：吉村学先生にご発言いただきました。北九州市長からは、北九州市の健康政策が「かかりつけ医」を軸に計画されている話があり、これは非常に興味深いことで、今後、家庭医療の果たす役割も地域によってはかなり増大するであろうことが予感できました。また、メディアからの、既存の社会的制約にとらわれずに国民にとってよい家庭医療を構築すべきとの力強いご意見は印象的でした。一方で、家庭医療側シンポジストからの家庭医療の現状と将来の示唆に富むご意見も、家庭医療後期研修プログラムのアウトカムが妥当であることをお話されていたように思われました。さらに、フロアからかなり多数のご発言があり、これによってシンポジウムを非常に有意義なものにさせていただきました。本当にありがとうございました。

今回のシンポジウムによって、「日本で求められる家庭医とは」、「日本は家庭医療後期研修プログラムをどう見るか」に対する答えの一部をうかがうことができました。今後、地域の人々から家庭医療を前進させる風を吹かせるために、日本家庭医療学会の更なる努力が必要と実感できました。今後とも、家庭医療の発展のために、または、地域の人々の健康のために、日本家庭医療学会会員の皆様のご指導、ご協力を引き続きお願いしたいと思います。

最後に、このシンポジウムが、2006年学会長の大園先生のご好意と山田代表理事のご協力によって実現したことを申し伝え、感謝したいと思います。

シンポジウム3

若手家庭医はどのように進路を選び、
どこで研修をしているのか

- 家庭医療後期研修の現場からの声 -

山下 大輔

(生協浮間診療所 / 北部東京家庭医療学センター)

名古屋で開催された第21回家庭医療学会学術集会において、「若手家庭医はどのように進路を選び、どこで研修をしているのか?」- 家庭医療後期研修の現場からの声」と題したシンポジウムを行いました。このシンポジウムは大会長の大園先生より若手家庭医部会に声を掛けていただき実現いたしました。学会が家庭医療の後期研修認定作業を進める中で、学習者となる若手医師がどのような思いで研修を行い、進路を選んでいるのかを、全国各地で家庭医を目指して研修を続ける医師や研修終了直後の若手医師を集めてのシンポジウムとなりました。最初に日本家庭医療学会の進めている、家庭医後期研修の進行状況などにつき簡単な紹介の後に、シンポジウムに併せてインターネットを使用して行った若手医師対象のアンケートの紹介が行われました。アンケートの中では、多くの家庭医を目指す医師は、前向きに自分の進路選択をしている一方で、将来の就職先や、身分保障そして社会の理解などについて不安をもっているようでした。しかし、この不安は後期研修のプログラムに参加している人も、参加していない人もほぼ同じ割合をしめしていました。そしてこのような不安を持ちながらも、家庭医を将来の進路として目指す意欲は多くの人が持っているようでした。これに引き続き4人のシンポジストより現在受けている研修や、研修終了後の家庭医としての日常について発表がありました。県立広島病院総合診療科の宮本さんは、自治医科大学の義務年限の中で家庭医を目指すようになり、教科書や自ら他の施設に赴きながら研修を苦労しながら組み立てている様子を発表されました。そして地域の皆さんと後輩のために新たな研修の道を開ければとの意欲を語られました。亀田メディカルセンターの篠原さんは、産婦人科のローテーションでお子さんを取り上げ、その後に引き続いてローテーションをした小児科で乳児検診を引き続いて行いながらのユニークな研修の様子を発表されました。岡山県あかいわファミリークリニックの光嶋さんから家庭医の日常についての発表がありました。卒後すぐに川崎医科大学総合診療部に入られ家庭医を目標に6年間の研修をされ、平成13年に開業されています。非常に忙しく、そして外来、訪問診療、リハビリテーション、学校医、老人ホームの嘱託医、地域の健康教育

など多岐にわたる活動をされている毎日を紹介され、家庭医を目指して研修をすることは地域のニーズに対応するためには必須であることを強調されました。最後に北海道家庭医療学センターでの研修を終了後、更別村国民健康保険診療所にて家庭医後期研修に関わりながら診療を行う、山田さんからの発表がありました。地域の保健・福祉・行政に関わりながらの診療の様子を発表されました。その中で地域の信頼を得るための、学会の認定プログラムや家庭医の認定制度の重要性と地域（ホーム）で実績を上げて、理解を深めて行くことの重要性について発表がありました。

これらの発表の後、5名のシンポジストを加えてディスカッションに移りました。家庭医後期研修の必要性や現時点での制度に対する不安や期待。初期研修医にとっても、研修先を決める上で家庭医やプライマリケア領域の中での理解の不一致が混乱を招いているとの発言があり、今後しばらくは家庭医後期研修プログラムに参加しながら研修を進める人と、参加せずに研修を進める人が出てくる中での配慮などについても発言がありました。研修の内容については、家庭医が活動する場に即した研修が必要であることも話し合われました。時間が短く、一つ一つの内容につき議論が深められなかったのが残念でした。

会場には若手医師を中心に、学生・指導医も含めた多くの参加者を集め家庭医研修に対する関心の高さが伺われました。なおアンケートの詳しい内容やシンポジストの発表などについては、今後準備委員でまとめを行い、学会誌への報告を予定しております。



学会賞の総括

山本 和利

(札幌医科大学地域医療総合医学講座)

学術集会の第2日目に、応募三十数題の中から一次審査を通過した7題の日本家庭医療学会 第一回学会賞候補演題の発表が行われました。十数項目に及ぶ項目を点数化して審査した結果、最高点を獲得した竹中裕昭氏（竹中医院）の「総合診療医が行う家族アプローチ（第3報）」を『日本家庭医療学会 第一回学会賞』に決定致しました。笑顔で共同研究者への感謝の言葉を述べる竹中氏が印象的でした。受賞者には英文の盾と日本語の賞状、副賞が送られました。来年度、若手研究者からのたくさんの応募を期待しています。



日本家庭医療学会 理事会 議事録

日 時：2006年2月12日（日）8:00～11:00

会 場：晴海グランドホテル 小会議室

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典、葛西龍樹

監 事 宮崎 景（伴信太郎代理）

理 事 内山富士雄、岡田唯男、梶井英治、木戸友幸、武田伸二、

名郷直樹、藤沼康樹、前野哲博、山本和利、吉村 学

若手家庭医部会 大橋博樹、山下大輔

1. 会員数報告，新入会員承認，会費未納退会者

山田代表理事より、2月7日現在の会員動向の報告があり、承認された。

会員数：1,186名（うち、医師会員1,010名）

入会者：47名（2005年11月9日～2006年2月7日）

退会者：13名（2005年11月9日～2006年2月7日）

未納者：73名（H14まで納入済）

前回の運営委員会で新入会者の記載漏れがあったことが報告された。

（誤）入会者：15名（7月29日～11月8日）

（正）入会者：40名（7月29日～11月8日）

お詫びして訂正いたします（学会事務局）

2. 平成17年度収支決算報告

山田代表理事より、平成17年度の収支決算について説明があり、法人化へ移行するため18年1月31日をもって任意団体の日本家庭医療学会が終了したことが報告された。任意団体の期末資産9,664,519円は特定非営利活動法人 日本家庭医療学会に寄付し、2月1日から法人としての会計年度が始まったことが説明され、承認された。

3. 常設委員会報告

家庭医療プログラム・専門医認定検討委員会

山田代表理事より「家庭医療後期研修プログラム構築のためのワークショップ」(3回開催)により作成された「特定非営利活動法人日本家庭医療学会認定後期研修プログラム(案)」が提出され、理事会で討議された内容をもとに加筆訂正を行い、素案として3学会に呈示したのち学会ホームページに掲載することとなった。

編集委員会

藤沼理事より、3月末の発行を予定していることが述べられた。また後期研修プログラムが出た時点でプログラムディレクターの座談会を行う案があることが報告された。

広報委員会

岡田理事より、引き続きリレー連載が続いているので要請があれば断らないようにとの依頼が述べられた。

研修委員会

武田理事より、第13回家庭医の生涯教育のためのワークショップについて報告があった。参加者は160名超。収支差額は-222円。

また、定員を満たしたため受講できなかった会員がいたため、申し込みの受付方法(会員の優遇)などについて議論する必要があることが述べられた。

研究委員会

学会賞について

学会賞の決定方法について協議された結果、決め方については日野原賞に準じて行い、審査員は学術集会当日出席可能な理事の中からアトランダムに選ぶこととなった。

研究補助金交付申請書について

山本理事より、6題の申請があったことが報告された。補助金交付の基準等について審議された結果、選び方については点数制とし、執行部にて審査を行うこととなった。

研究初学者のためのワークショップについて

前野理事より、これまでに第2回までが開催されたことが報告された。第4回まで開催したのち参加者にはアウトカムを出してもらいたいことが述べられ、可能であれば来年度以降も継続していきたいとの意向が述べられた。

倫理委員会

前野委員より、前回の理事会以降、審査したものはないことが報告された。

若手家庭医部会

若手家庭医のための冬期ワークショップ

若手家庭医部会の山下代表(以下、山下代表)より、若手家庭医のための冬期ワークショップの参加状況や内容について報告があった。ニーズも高く盛り上がりもあるので、可能であれば来年度以降も継続していきたいとの意向があり、収支に関しては、次回の理事会にて報告を行う予定であることが述べられた。

若手家庭医部会WEBサイトの開設について

山下代表より、若手家庭医部会のWEBサイトが開設されたことについて報告があった。WEB費用について、来年度以降も学会のWEB費用内で作成したいとの意向が述べられ、承認された。

キャッチフレーズについて

(4.を参照)

家庭医療後期研修プログラム調査

(4.を参照)

若手家庭医部会役員改選、選挙

山下代表より、若手家庭医部会の役員改選について説明があり、学会の名簿を若手家庭医部会のメンバーリストと対照することについて承認された。

学術集会のシンポジウムについて

山下代表より、学術集会開催時に開催を予定しているシンポジウムの企画について説明があった。

若手家庭医部会ロゴマーク募集

山下代表より、若手家庭医部会のロゴマークを作ろうということで募集をかけていることが報告された。

その他、若手家庭医部会の活動状況について説明および報告があった。

学生研修医部会

前野理事より、夏期セミナーの準備状況について順調に進んでいることが報告された。

4. プロジェクトについて

家庭医療後期研修調査プロジェクト

山下代表より、「家庭医療後期研修プログラム調査」

の進行状況について説明があり、情報提供という形で家庭医療後期研修施設の一覧を公開予定であることが述べられた。また、今後は時期をみて学会主体の事業となることについて了承された。

家庭医キャッチフレーズ募集

竹村副代表理事より、若手家庭医部会のWEBサイト内で行っているキャッチフレーズ募集の経緯について説明があった。学会のプロジェクトとして行われていることが分かりにくいとの意見が出され協議した結果、学会ホームページのトップにキャッチフレーズ募集について明示することとなった。

5. ワーキンググループについて
特に活動報告等はなかった。

6. 第21回（2006年）学術集会について
山田代表理事より、第21回（2006年）学術集会の準備状況について説明があった。

7. 平成18年度事業計画について
生涯教育ワークショップについて
武田理事より、2006年11月11日～12日に大阪の天満研修センターで行う予定であることが報告された。定員を200名とし、会員の優遇を考慮したいとの意向が述べられた。

臨床研究初学者のための勉強会
山本理事より、主に講師の交通費等の補助ということで50万円の補助金が申請され、承認された。

医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー
前野理事より、講師料支払い等により、80万円の補助金が申請され、承認された。

若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー
山下代表より、次回のセミナーでは規模を倍にする予定があることが報告された。補助金については、今回と同額の20万円が申請され、承認された。

新規事業計画について
前野理事より、2つの新規事業が提出され、「家庭医の視点に立ったpatient handoutsをつくる」については学会のWEBを活用し、ワーキンググループなどでアップデートなどの作業を続けていくことが提案され、承認された。もう一方の「緩和医療教育セミナー」については、今回は後援という形をとることとなった。また、来年度からは学会で事業計画を公募することとな

った。

8. 総会学術集会・学会長の今後の選定方法について
山田代表理事より、再来年度（第22回）の学術集会について進捗状況が報告され、宮崎県で合同開催する方向で進めることとなった。学会長については名称を「プログラム委員長」などとし、大会運営については事務局や執行部がサポートすることであまり負担のない形で進めていくことが話し合われた。なお再来年度の学術集会は従来どおり大会長を置くこととなった。

9. 理事会・委員会ならびにセミナー・ワークショップの講師等の旅費、宿泊、謝金等について
山田代表理事より、旅費規程の案が示され内容について説明があった。協議の結果、理事会については規程に準じて支給することとなった。
委員会については他の事業に合わせて行うことを促し、単独で行う場合は予め学会へ連絡していただき協議の結果、可能であれば必要な旅費を年間1～2回支払うこととなった。

各事業で発生する謝金については事業によって性質が異なるため、今までを踏襲して運営することとなった。

10. 学会主催ワークショップ、セミナー等における会員参加の優遇について
学会で行うワークショップやセミナー等への会員の優遇について協議した結果、各事業にて先行予約や参加費に差をつけるなど適宜行うこととなった。

11. 理事選出のための選挙管理委員会について
山田代表理事より、6月末の任期満了にともない役員選挙規則にしたがって改選準備を行っていることが報告され、選挙日程や方法について説明があった。選挙管理委員は、下記の4名。

一戸由美子、小林裕幸（委員長）、西村真紀、福土元春（敬称略）

12. その他
プロジェクトとWGについて
プロジェクトとWGという言葉のそれぞれの位置づけについて協議した結果、学会としての事業となった時点で「WG」とし、それまでは「プロジェクト」と称することとなった。

次回理事会について
山田代表理事より、次回理事会は、学術集会1日目の5月13日（土）午前中に行う予定であることが報告された。

役員選挙開票結果

平成18年4月7日に開票されました役員選挙の結果、役員（任期：平成18年7月1日～平成20年6月30日）に以下の方々が選出され、その後5月12日に開催されました新第1回役員会において理事ならびに監事が決定いたしましたのでご報告申し上げます。

有権者数：984名 投票者数：188名 投票率：19.1% 投票総数：831票 無効票数：0票

代表理事	山田 隆司	社団法人 地域医療振興協会（東京都）
副代表理事	葛西 龍樹	福島県立医科大学 地域・家庭医療部（福島県）
	竹村 洋典	三重大学医学部附属病院 総合診療部（三重県）
理事	生坂 政臣	千葉大学医学部附属病院 総合診療部（千葉県）
	大西 弘高	東京大学医学教育国際協力研究センター（東京都）
	岡田 唯男	亀田総合病院・亀田メディカルセンター（千葉県）
	亀谷 学	川崎市立多摩病院（神奈川県）
	草場 鉄周	北海道家庭医療学センター 本輪西サテライトクリニック（北海道）
	伴 信太郎	名古屋大学医学部附属病院 総合診療部（愛知県）
	藤沼 康樹	日本生協連医療部会家庭医療学開発センター・生協浮間診療所（東京都）
	山本 和利	札幌医科大学 地域医療総合医学講座（北海道）
	松下 明	奈義ファミリークリニック（岡山県）
	三瀬 順一	自治医科大学地域医療学センター 地域医療支援部門（栃木県）
監事	津田 司	三重大学大学院 医学系研究科 家庭医療学（三重県）
	藤崎 和彦	岐阜大学医学部 医学教育開発研究センター（岐阜県）

指名理事決定のお知らせ

役員選挙規則に基づき指名理事（5名以内）について検討いたしました結果、下記の方々に決定、ご承諾いただきましたので、ご報告申し上げます。

雨森 正記	医療法人社団弓削メディカルクリニック（滋賀県）
小林 裕幸	防衛医大病院総合臨床部（埼玉県）
白浜 雅司	佐賀市立国民健康保険三瀬診療所（佐賀県）
西村 真紀	川崎医療生協・久地診療所（神奈川県）
森 敬良	大曲診療所 / 出雲家庭医療学センター（島根県）

日本家庭医療学会 選挙管理委員会 議事録

日 時 : 2006年4月7日 19時00分 ~ 20時00分
場 所 : 都市センター会館 9F
出席者 : 小林 裕幸(委員長)、一戸 由美子、福土 元春、西村 真紀(敬称略)
立 会 : 若手家庭医療部会 3名

1、開票

- ・開票結果により、上位15名の当選を確認。
- ・同一施設から3名以上の選出または65歳以上の選出もなく、順位どおりの選出で確定。
- ・立候補者が13名、推薦が2名であり、辞退者は少ないと思われる。
- ・辞退者が出た場合も、5名までは得票数に差があるため、問題ないと考えられる。
- ・5名以上の辞退者が出た場合は、事務局から連絡をうけて、再度選挙管理委員会を開き、抽選を行うこととする。

2、今後の日程の確認

- ・当選者に事務局から当選通知を送付し、承諾書を返信いただく。
- ・5月12日(金)に最初の理事会が開かれ、代表理事を選出し、総会で承認を受ける。

- ・当日は選挙管理委員長が理事会・総会に出席する予定。

3、今回の選挙に関する意見

- ・女性の選出がないので、是非女性を1名以上入れられるようにしていただきたい。
- ・開業医からの選出がされにくくなっているが、役員にいたほうがよいのではないか。
- ・年度変わりの時期の選挙は、移動が多いため、もっと早い時期にすべきではないか。
- ・海外留学中の会員も投票できるよう、投票期間に配慮すべきである。
- ・若手部会の選挙を同時に行ったが、混同する可能性があるため、分かりやすくする工夫が必要である。

以上

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

新役員からひとこと

雨森 正記

滋賀県の医療法人社団弓削メディカルクリニックの雨森正記です。今回日本家庭医療学会の指名理事にご指名頂きました。

卒後5年目より18年あまり現在の勤務地の滋賀県竜王町の診療所で仕事をしております。日常の診療だけでなく、家庭医志望の医学生、前期研修医、後期研修医を当院で受け入れて研修して頂いております。というよりともに毎日勉強しています。

日本での家庭医療学の進歩に少しでもお役にできればと考えております。よろしく願い致します。

生坂 政臣

大学も変革期を迎え、従来の診療、教育、研究、教室運営だけでなく、病院経営や徹底した患者サービスまで考えなくてはならない時代に突入しました。この

ような厳しい環境で、これまで大学では困難とされてきた、ジェネラリストの育成と、その基盤となる教室造りにこれからも挑戦し続けます。

大西 弘高

このたび新しく日本家庭医療学会の理事に選出されました大西弘高と申します。総合診療医としての研修、指導、研究に従事した後、徐々に医学教育を専門とする立場に軸足を移しつつあります。

日本のプライマリ・ケア領域における教育をどのように改善していくかについては、私が携わっていかなければならない最も重要な課題と位置づけております。日本家庭医療学会が後期研修プログラムについて検討を重ねられている現状において、お役に立てることを願っております。

岡田 唯男

日本家庭医療学会員の皆様、役員へのご選任大変ありがとうございます。今回で二期目のお勤めをさせていただきます。

私事ではございますが、約4年前より鉄蕉会 亀田メディカルセンターにて家庭医療学後期専門研修プログラムの整備、構築に努めて参りました結果、既に6名の修了生を出すことが出来、この6月から、更なる飛躍を目指して医師は家庭医と家庭医療学後期研修医約10名だけで運営するサテライトクリニック（亀田ファミリークリニック館山）を開設することが出来ました。まだ開設1ヶ月少しですが、患者さまの数も多く、また大変幅広い問題が持ち込まれており、各科ローテーションには出たものの、自らの診療現場では遭遇しない、また遭遇はしても周囲の状況から専門医へ送らざるを得ないために実践の機会が無いまま、習得した知識や技術がそのまま風化してしまう、という「理想と現実の乖離」問題がほぼ解消され、「毎日の診療活動が即、家庭医研修そのもの」という理想的な実践、研修の場となり、研修医ともども忙しいながら非常に充実した毎日をすごしております。

長くなりましたが、ようやく学会レベルで後期研修のプログラム認定や整備が始まった状況で、亀田にて家庭医療の実践、教育の理想的な環境を積み上げてきた経験は必ずや学会レベル、また日本の医療供給体制に大きな還元が出来ると考えております。日本の家庭医療後期研修の一つのモデルとして、様々なノウハウを皆様と共有できるよう、任期いっぱいまで頑張らせていただきます。学会への要望などございましたら遠慮なくお申し付けください。どうぞよろしく願いいたします。

葛西 龍樹

本学会の最重要課題は、標準化された「家庭医療後期研修プログラム」が全国各地で運営されるように、それらのプログラムを育て、認定し、発展させて続けていくことです。この「標準化」は「質」を高めることを要求します。かなりの努力と勇気が必要です。でも、家庭医療を利用する人たちの健康と満足に真に寄与するために、学会として社会的責任を果たしていきましょう。20年後、30年後の日本に住む人たちが、彼らのために家庭医療の「質」にこだわった私たちの努力を賞賛してくれるはずです。一方でこの「標準化」は画一化ではありません。ある一定のレベルを確保した上で、研修プログラムごとに地域の実情に合わせて

特色のあるユニークなプログラムを創造していきましょう。「日本に住む人たちがより良い家庭医療を利用できるように」そして「日本で家庭医を目指す人たちがより良い教育を受けられるように」というミッションをより鮮明にして、一生懸命努力する学会にしていきたいと思います。

亀谷 学

ジェネラリストの学会では、プライマリ・ケア医・総合診療医・家庭医・かかりつけ医などの識別が不鮮明になっています。研修制度・認定医・専門医の言葉が飛び交い、それぞれが混沌としているのが要因と思われる。

若手家庭医とともに翻訳出版した「プライマリ・ケア - 何を学ぶべきか - (プリメド社)」には、家庭医療のアイデンティティが整然と綴られています。そこには、章ごとに当該専門領域学会と米国家庭医療学会が対等の立場で協議し、家庭医療に必要な内容が明記されています。

日本家庭医療学会の役割は、家庭医療の真髄を見失うことなく、特に意欲的な若い人たちに研修方法・成果・自信を与えることです。日本の風土や医療保険制度、他組織との連携をも視野に入れた今後の学会活動に尽力したいと考えています。

川崎市立多摩病院 病院長

〔指定管理者 聖マリアンナ医科大学 内科学（総合診療内科） 教授〕

草場 鉄周

この度、理事に選出されました医療法人 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター所長の草場鉄周と申します。

私は平成11年に京都大学医学部を卒業後、家庭医を目指してこのセンターで4年間の研修を積み、修了後は室蘭市の本輪西サテライトクリニックという診療所の家庭医として、日常診療及び研修医教育に3年間従事して参りました。まだまだ経験不足ではありますが、当センターが地道に築いてきた10年間の実績を大切にしながら、日本で家庭医療研修を受けてきた“国産家庭医”としての立場や家庭医養成に携わってきた経験を活かして、家庭医療が専門研修と認定制度の確立を通して日本の社会システムに適合しようとするこの大切な時期に、本当に国民に支持される家庭医療を実現するべく微力ながら貢献させていただきたいと考えております。

小林 裕幸

今回、指名理事に任命されました小林と申します。山田会長をはじめ、現在の学会の方向性に賛同し、家庭医としてしっかりとした認定研修プログラムを作り上げ、新しい家庭医を育てることが家庭医療（総合診療を含めて）発展の最短の道と考えています。微力ではありますが、家庭医療学会の歴史的転換点と一緒に仕事をさせて頂ければと考えています。若い先生の意見も積極的に取り入れながら、具体的なビジョンをもって、学会の仕事に関わっていく所存ですので皆様のご指導よろしくお願い申し上げます。

竹村 ^{ようすけ} 洋典

日本家庭医療学会発展の原動力は、市民のニーズであると確信しております。したがって、日本家庭医療学会は市民の声を十分に聞き、それに応えるような活動をすべきと考えております。

そのために、市民に良質で均一な家庭医を提供するための家庭医療後期研修認定作業、指導医養成活動、さらに、この後期研修が市民のニーズに応えうるものであるか否かを検証する活動が必要と考えます。

理事としてこれらの活動に寄与していきたいと思っております。皆様のご指導、ご協力、どうかよろしくお願い申し上げます。

津田 司

少子高齢化社会では、保健・医療・福祉を統合して展開し地域住民の健康を守る専門医としての家庭医が求められています。

家庭医療学会の使命は、学術的な研鑽に努め、専門医を養成して、地域社会の強いニーズに応えることであると考えます。

この使命を遂行するために、皆様と手を携え、関連学会と連携して日々の活動を展開したいと考えています。

西村 真紀

初めまして。川崎医療生協付属診療所の西村真紀です。家庭医療研修プログラム開発に力を入れるとともに、女性理事としての任務を果たしていこうと思っております。

集会では託児所を設置したいと思っております。女性男性を問わず、いったん職を離れた方や他分野から家庭医への転向の方など、再研修の方法を学会として提案し援助していきたいと思っております。子育て、介護、健康問題、etc、様々な制約がある医師の能力を有効に発揮できるようなシステム（ワークシェアリング

など）を考え援助していきたいと思っております。

皆さまの積極的なご意見・ご要望をお寄せくださいますようお願いいたします。

伴 信太郎

名古屋大学医学部附属病院総合診療部の伴信太郎です。領域を狭く絞って深く追求する“細分化する専門医”に出会う機会が多い職場で働いていると、あらゆる健康問題に対応し、保健・医療・福祉・介護の各側面に配慮し、個人のみならずその家族および生活する地域までも視野に入れる“総合する専門医”（ジェネラリスト）の重要性をひしひしと感じます。

名古屋に来て年が過ぎましたが、その間“総合する専門医（ジェネラリスト）”も「専門医」であって、そのための体系的な教育を受けないと質の高いジェネラリストにはなれない、ということを中心として主張し続けています。継続は力なりと考えています。

ジェネラリストとしての働き場所は、プライマリ・ケアだけではなくありません。大学病院のような3次医療機関から地域医療の場まで、あらゆる環境でジェネラリストは必要です。しかし、プライマリ・ケア医としての良質な医療の展開は、ジェネラリストにしかできません。その方向性の一つが家庭医だと考えています。

当然のことですが、それぞれの研修にはそれぞれ独特の研修の場が必要です。家庭医は診療所、病院の総合診療専門医は病院、ですが、両者に共通して求められる臨床能力も極めて多く、それぞれの研修を経験しておくことは決してマイナスにはならないと確信を持っています。

藤崎 和彦

岐阜大学医学部医学教育開発研究センターの藤崎和彦です。

岐阜大学医学教育開発研究センター(通称MEDC)は、医学部・医療系教員、臨床指導者のティーチャートレーニングの全国センターとして作られた施設で、年4回ティーチャートレーニングのためのセミナー&ワークショップを定期的開催しています。

詳しくは下記のURLをご覧くださいませ。

<http://www.gifu-u.ac.jp/medc/seminarworkshop/index.htm>

専門は、医学教育学、医療行動科学、ヘルスプロモーション、医学概論で、プライマリケアの周辺部分からずっと家庭医療学に関わってきています。今後ともよろしく申し上げます。

藤沼 康樹

略歴

1983年 新潟大学卒業

同年 王子生協病院内科にて初期研修開始

1993年 生協浮間診療所所長

2001年 北部東京家庭医療学センター

2006年 日生協医療部会家庭医療学開発センター

医療生協家庭医療学後期専門研修プログラム責任者
ライフ・ワークは、地域立脚型医学教育の実践と、
家庭医療学の普及と家庭医療学専門研修（レジデンス）
の確立です。家庭医療学会の役員としての抱負は、

1. 家庭医療学後期研修プログラム作成・運営の援助
2. 家庭医療学指導医養成のための企画・運営
3. 家庭医にふさわしい、コンピテンシー評価法の開発

の側面から、会員の皆様への貢献をしたいと考えています。よろしく願いいたします。

松下 明

奈義ファミリークリニックの松下明です。岡山県北の人口7000人弱の奈義町で家庭医療の実践と後期研修医育成、卒前診療所教育などを行っています。

家族志向のケアや行動科学教育、診療所での後期研修内容充実などに関して学会の活動を支援していけたらと考えています。よろしく願いいたします。

三瀬 順一

私の役員任期内に学会が実行することを挙げ、抱負に代えます。

日本家庭医療学会は、地域住民と患者・家族にとって最も役に立ち、信頼でき、お金がかからないしくみが家庭医であることを広くアピールします。

日本家庭医療学会は、日本医師会やプライマリ・ケア関係諸団体と、国民の健康と幸福という同じ目的をめざす団体として協同・協調を進めます。

日本家庭医療学会は、製薬資本などを始めとする営利企業とは明確な距離を置き、国民からいささかも疑念を持たれないような事業展開を心がけます。

日本家庭医療学会は、真理を探究し、生命倫理を重視し、患者・住民にとって意味のある成果をめざした学術活動を展開します。

日本家庭医療学会は、学生・研修医から始まる生涯教育に取り組みます。

森 敬良

私が家庭医を目指した理由は、目の前の患者さん達にあります。中小病院で研修を受け、専門分化しない外来、病棟を経験し、総合的な医療が地域で必須の役割を果たしていると確信しました。しかし同時に診療や教育の質の問題、後継者不足の問題などを感じました。私は「家庭医」がこれらの問題の解決となると考えたのです。他にも全国には様々な理由で家庭医をめざす若手医師がたくさんいます。私は若手家庭医部会の代表として学会を一層盛り上げ、一人でも多くの若手医師が家庭医になれるように頑張っていきたいと思っています。

山田 隆司

この度2回目の代表理事を勤めさせていただくことになりました。一期目では学会の法人化と後期研修プログラムの立ち上げが大きな目標だったのですが、多くの会員の皆様のご協力により何とか実現することができました。今期の最大目標は後期研修プログラムの認定と家庭医療専門医の実現に向けての取り組みです。

まだまだ質の高い家庭医、家庭医療が日本で認知されるには程遠い道のりですが、医療提供者の利益や論理に拘泥されず、真に国民のための良質な家庭医療の実現を胸に頑張りたいと思います。

山本 和利

2年間の初期スーパーローテーション研修後の受け皿として、北海道内の病院（国立、市立、民間）が共同してプライマリ・ケア医養成のための後期研修プログラム（ニボポ・プログラム）の責任者もしています。このプログラムのキャッチフレーズは「新たな挑戦、北の大地から」「地域こそが最先端！」です。日本家庭医療学会の家庭医養成の後期プログラムとも整合性のあるものです。

このような活動をしながら日本家庭医療学会の役員として、日本総合診療医学会、日本PC学会との意見交換の架け橋になればと思っております。会員の方々のご支援、よろしく願いいたします。

若手家庭医部会 役員選挙 開票結果

さる4月7日午後7時より、東京都千代田区の地域医療振興協会内で若手家庭医部会役員選挙の開票作業を行いましたので、結果をご報告いたします。

選挙対象者数：182票 総投票数：47票 投票率：25.8%

会長 森 敬良

大曲診療所 / 出雲家庭医療学センター（島根県）

：信任45、不信任0、無効2

副会長 大塚 亮平

佐久総合病院（長野県）

：信任42、不信任2、無効3

中川 貴史

寿都診療所 / 北海道家庭医療学センター（北海道）

：信任45、不信任0、無効2

よって、3名ともに信任されましたことをご報告申し上げます。

なお、この選挙結果を受けて、5月31日（土）に行われた日本家庭医療学会若手家庭の医部会総会で承認が得られました。

新役員の任期は2006年6月1日から2年間です。

日本家庭医療学会若手家庭医部会役員選挙
選挙管理委員会

若手家庭医部会新役員からひとこと

森 敬良

この度、若手家庭医部会第2期代表に選出されました森です。私は医師になって6年目で、大曲診療所所長および出雲家庭医療学センターの副センター長として、診療・教育・研究を行っています。より多くの方が安心して家庭医になれるようなサポートを若手家庭医部会として取り組んでいきたいと考えております。皆様のご支援、ご指導を何卒よろしくお願いいたします。

大塚 亮平

この度若手家庭医部会の副代表を務めさせていただくことになりました大塚亮平です。皆さんと共にこの会を盛り上げ、当会が家庭医を目指す若手のサポーター役として、また若手の意見を集約する場として今後ますます発展していけるよう尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

中川 貴史

この度副代表に就任いたしました中川貴史です。現在北海道家庭医療学センターに在籍し、勤務先は北海道寿都町という日本海沿いの町にある町立診療所です。私も様々なことに悩みながらも、多くの方に支えられ、ここまで楽しく家庭医ライフを送って参りました。今後はより多くの若手医師が家庭医を目指しやすい環境を作り出すことに尽力していければと思っております。どうぞ御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

若手家庭医部会正式承認後の一年を振り返って

昨年5月若手家庭医部会は、総会での承認をされました。それまでは任意団体としての活動でしたが、学会の正式な組織として新たな出発をきった一年となりました。家庭医を目指して研修を続ける若手医師の意見を集約し、家庭医をより目指しやすくするような活動が出来ないかと思いながらの1年でした。

具体的には家庭医後期専門研修のワークショップへの参加や若手家庭医部会での企画を複数行いました。昨年京都で盛大に開かれたWONCAでは、アジア各国のレジデントを集めそれぞれの国での家庭医研修を紹介し、研修での喜びや苦勞を分かち合いました。これには会場に入りきれないほどの聴衆を国内外から集め、関心の高さを伺わせました。1月には、学会のご協力をいただき念願のホームページを開設。2月には家庭医を目指す医師の生涯学習を目的にワークショッ

プを東京にて開催し、若手の医師のみならず全国から多くの参加者を集めました。去る5月の学術集会では、大会長の大園先生のご推薦をいただき、家庭医後期研修の現状と未来を研修者の立場から語りあう、シンポジウムを企画いたしました。またこの学術集会では若手家庭医部会発足前から続けてきた、家庭医後期研修施設現状調査の報告を行いました。この他にも学会の活動として家庭医のキャッチフレーズを募集するなどの複数の企画が現在進行中です。

若手家庭医部会の前組織から数えますと、約2年間が過ぎました。設立契機となったメーリングリストの参加者も200名を越えるまでに大きくなりました。この間に家庭医研修を取り巻く状況は大きく変わり、学会における家庭医後期研修の施設認定の具体的な作業も進んでおります。家庭医になりたいと思っても、

具体的な指針や研修の場が少なくもどかしいと感じながら活動を始めた頃を思うと、家庭医後期研修のプログラム案が提示されるなどはじめたときは思いもよらなかった変化がここ数年で起きています。またジェネラリストへの社会の期待も多く、学生・初期研修医の選択肢に総合医や家庭医があげられるようになってきています。一方で自分たちの言動が思っていた以上に注目を浴びる場面もあり、戸惑いを感じたこともありました。

若手家庭医部会は今後も卒後3年目以降に家庭医を目指して研修を行う医師の組織としてメンバーが入れ替わりながら活動を続けて行ければと願っております。

す。個人的には代表として至らなかった部分も多く、皆様に多くのご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。また地域の第一線や教育機関で活躍される家庭医の先生方からの励ましは何よりの力となりました。大変感謝しております。諸先輩方のようにいち早く、家庭医として活動を開始し、地域・国民の健康に貢献できるような環境が実現できればと思っております。今後とも会員の皆様のご理解とご支援を何卒よろしくお願いいたします。

山下 大輔
(前若手家庭医部会代表)

第18回医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー

日時：2006年8月5日(土)～7(月) 2泊3日

場所： セミナー会場・宿泊

湯沢グランドホテル

〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢2494 TEL 025-784-2351

上越新幹線「越後湯沢駅」西口より徒歩2分

定員：200名

参加費：学生 会員 19,000円(10,000円) 非会員 22,000円(11,000円)

医師 会員 26,000円(13,000円) 非会員 30,000円(15,000円)

内容：詳細については、日本家庭医療学会ホームページ、学生・研修医部会のページをご覧ください。

1日目「出逢う」

第1線で活躍される先生方のお話を聞き、家庭医療、そして全国の同じ志を持つ医学生・研修医と出逢います。

講演会

プレセッション

全国で行われている勉強会・サークルの紹介

懇親会

2日目「深める」

選択性のセッションを通じて知識や興味、自己意識を深め、また昨日であった人々と語り合い友好を深めます。

セッション(選択性)

低学年から高学年、研修医まで楽しめる15のセッションを準備しています。家庭医に必要な基本的臨床技能から、毎日の外来で役立つ応用的な臨床技能まで盛りだくさんです。

ポスターセッション

研修プログラムの紹介

懇親会

3日目「広げる」

セミナー最終日、2日間のセミナーからえた想い、交友関係を広げてください。

セッション(選択性)

2日間のセミナーで生じた疑問や不安を経験豊かな講師の先生と同じ志を持つ仲間と解消しましょう。家庭医を目指す参加者の皆さんに、未来展望を広げる5のセッションを準備しています。

第14回家庭医の生涯教育のためのワークショップ

今年も11月にワークショップの開催を予定しています。プライマリ・ケア学会のワークショップが同時期に東京で開かれることもあり、今回は大阪での開催予定です。メインのテーマを「感染症に強くなる」としました。感染症専門医の亀田総合病院・岩田先生、市中肺炎のガイドラインで活発に活動されている大阪の中浜先生、メーリングリスト“TFC”でおなじみの田坂先生などにお話をお願いしております。またこの他にも是非とも知っておきたい診療のコツを取り上げたテーマを用意いたします。

案内・受付開始は9月中旬予定です。今年は200名の枠を組み、会員の方優先で受付を開始します。今から日程に加えておいてください。

日 時：2006年11月11日（土）・12日（日）

場 所：天満研修センター（大阪）

テーマ：「感染症に強くなる」

定 員：200名

第2回若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー

日 時：2007年2月上旬頃

場 所：大阪

内 容：現在検討中ですが、下記を学習する内容をワークショップ形式で行う予定です

1. 家庭医療学のcore principles（患者中心の医療、家族指向のケア、地域包括医療など）
2. 家庭医が遭遇するcommon problems（よくみる症状、よくみる病気、予防、健康教育など）
3. 家庭医として成長するための生涯学習方法（ポートフォリオなど）

詳細が決まり次第、学会メーリングリストや若手家庭医部会ホームページ <http://jafm.org/wakate/> でご報告いたします。

参考：第1回目若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナーを2006年2月に開催しました。

詳細は上記ホームページをご覧ください。

日本家庭医療学会認定後期研修プログラムについて重要なお知らせ

本学会では先に認定後期研修プログラム（バージョン1.0）を発表しましたが、それに則って研修を実施する後期研修プログラムを募集します。平成19年度に日本家庭医療学会認定の家庭医療後期研修プログラムとして運用する（「本認定」と称します）ためには、平成18年度中に手続きを終了する（「仮認定」と称します）必要があります。平成18年12月10日までに申請をお願いします。

なお、研修プログラムを来年度以降に実施する予定、または、すぐにではないがいずれ実施したい方は、今後の進め方について個別にご相談しますので事務局へご連絡下さい。

家庭医療後期研修プログラムの概要（右記参照）を添えて学会事務局に申請して下さい。

申請から認定までの流れなどの詳細は、会報に同封

いたしました「日本家庭医療学会認定後期研修プログラムについて重要なお知らせ」をご覧くださいませ。

- * プログラム名
- * 施設名
- * 所在地
- * プログラム責任者（予定者）の氏名
- * TEL
- * FAX
- * メール
- * プログラム内容（様式自由。本学会認定後期研修プログラム（バージョン1.0）に合致していることが分かるように記載のこと）
- * 学会WEBサイトへの掲載についての諾否
- * 後期研修医名（平成18年度後期研修を開始した後期研修医がいる場合）

家庭医療後期研修プログラム認定と 指導医養成のための ワークショップ

5月27日～28日に第1回を開催して好評だった「家庭医療後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップ」を今後3ヶ月ごとに（年4回）シリーズで行います。今年度中の日程は下記の通り予定しています。

- 第2回 平成18年 9月23日（土）～24日（日）
- 第3回 平成18年 12月16日（土）～17日（日）
- 第4回 平成19年 3月17日（土）～18日（日）

各研修プログラムや地方ごとのケース・レポート、学会標準ブループリンティングの作成、研修プログラム構築・運営のコツを具体的に学べるコンサルテーション、指導法・評価法をエキスパート（海外招聘講師も予定）から学ぶワークショップ、参加者が自主的に創作するセッションなど、かなり満足できるワークショップ・シリーズを目指します。

なお、本学会認定後期研修プログラムとして「仮認定」「本認定」を受けるには、研修プログラムから担当者（責任者・指導医など）がこのワークショップに参加して学ぶことが要件となります。日本で質の高い家庭医が養成できるようぜひこのワークショップにご参加下さい。

【ワークショップへの参加登録方法】

メール、ファックス、郵送のいずれかにて、件名に「家庭医療後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップ」、本文に「氏名、所属、連絡先」を明記のうえ、下記学会事務局に申請をお願いします。

代理参加も可。但し代理の場合も会員であることが条件です。非学会員の方は当日入会手続きをしていただけます。

家庭医療後期研修プログラムのこれまでの状況を存じない方は、下記アドレスより学会認定後期研修プログラム（バージョン1.0）をダウンロードしてご持参ください。

http://jafm.org/html/pg01_0_060316.pdf

各ワークショップへの参加登録の締め切り日は、原則として開催日の2週間前の金曜日正午といたします。

宿泊に関しては各自お取り下さるようお願いいたします。

各回のスケジュールの概要は、追って学会ホームページに掲載しますのでご参照下さい。



第22回日本家庭医療学会学術集会・総会のお知らせ



白浜雅司（佐賀市立国民健康保険三瀬診療所）

今回、山田先生はじめ執行部の推薦により理事に加えて頂き、さらに、来年6月22（土）- 23（日）に東京で行われる第22回日本家庭医療学会の会長をお引き受けすることになりました。

九州にいる一人診療所の人間がこのような大役を果たせるか、心配は多いのですが、優秀な事務局の方々がおられるので、事務的なことはそちらにお願いし、また多くの会員の皆様の協力でプログラムを検討して、参加してよかったといわれるような学会にしたいと思います。

会場選定に苦労しましたが、羽田から1時間で着けて、340人まではいるホールと、50人のWSが6つ並行してできる会議室、土曜日の夕方200人が簡単な飲み物つきでポスター展示ができ、日曜の朝、8時過ぎからドーナツと飲み物のインタレストグループのセッションもできるところという難しい条件で、事務局の方をお願いして探していただいていたのですが、幸いJRお茶の水駅聖橋口から歩いて4分の損保会館を確保で

きました。先日下見をして、パイプ椅子を中心としたホールと会議室で、この2年続いた合同学会の施設と比べると確かに見劣りするかもしれませんが、機能性と会場費の問題を考えると、現在の私たちの学会の二ードにあった場所が確保できたのではと思います。

まだ大会のテーマも決まっていますが、せっかく診療所の医師が会長をするので、漠然と「家庭医療を現場で学ぶ、現場で教える」というようなことにこだわりたいと思っていて、教育講演のみ「現場でのプロフェッショナルリズム教育」について、その道の第一人者の東大教育学部の佐藤学先生にお願いし、快諾いただきました。

WS12個、シンポジウム、その他のプログラムは、これから決めていきますので、どうか私に皆様のアイデアや、希望を教えてください。また、今年できなかった託児所も来年の総会では準備しますので、子育て中の方もぜひご参加ください。

第22回日本家庭医療学会学術集会・総会

会 期：2007年6月23日（土）～24日（日）

会 場：損保会館（JR御茶ノ水駅 聖橋口）

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目9

TEL：03-3255-1299 / FAX：03-3255-1504

<http://www.sonpo-k.co.jp/>

大会長：白浜 雅司（佐賀市立国民健康保険三瀬診療所）

〒842-0302佐賀市三瀬村藤原3882-6

佐賀市立国民健康保険三瀬診療所

TEL：0952-56-2001 / FAX：0952-51-6017

E-mail：HQC00330@nifty.ne.jp



倫理委員会の方針が改訂されました

日本家庭医療学会研究倫理委員会の方針

- 1) 大学や研究施設などに属さず、研究についての倫理委員会への申請が難しい学会員が研究を進めるために作った委員会であること。
- 2) 家庭医療学に関連する研究についての倫理的審査をすること。
- 3) 学会員を対象として（代表研究者が家庭医療学会員であること）、倫理委員会の審査の費用は無料であること。
- 4) 学会事務局に、申請資料を送付するか、メール添付で送ってもらうこと。
- 5) ネガティブチェックのためだけでなく、どのようにしたら、倫理的に配慮された研究になるかをサポートする倫理委員会をめざすこと。
- 6) 申請された研究については、電子メールなどを使って倫理委員の間で検討し、2ヶ月以内には何らかの審査の結果を申請者に報告すること。
- 7) 倫理委員は、研究内容については、守秘義務をおい検討した内容が外部に漏れないように配慮すること。

日本家庭医療学会研究倫理委員会

白浜 雅司 佐賀市立国民健康保険三瀬診療所長（委員長）
浅井 篤 熊本大学大学院医学薬学研究部生命倫理学分野教授
稲葉 一人 科学技術文明研究所特別研究員（兼 東京大学大学院医学系研究科客員研究員）
山本 和利 札幌医科大学地域医療総合医学講座教授
前野 哲博 筑波大学附属病院総合臨床教育センター助教授

メールによる臨床倫理コンサルテーションの試験的運営について

家庭医療学会の会員の中には、ソロプラクティスなど一人医師体制の診療所で、延命治療の中止など倫理的な問題に直面した場合、相談する相手もなく困られることも多いと思われる。

そこで家庭医療学会の倫理委員会では、最初に予定していた研究倫理審査だけでなく、家庭医療の現場の問題について、メールによる倫理コンサルテーションを試験的に行ってみてはどうかという意見がでた。

もちろん、直接関係者に会うことのできない状態でのコンサルテーションが本当に有効なのかという意見もあったが、切羽詰った家庭が相談できる窓口を作ることのメリットの方が大きいのではないかということで、まず1年間試験的に試みることにしたのでご利用いただきたい。

- 1) 倫理的な問題について相談を希望する会員は、以下のメールアドレスへ連絡する。（月曜から金曜の学会事務局が対応できる時間のみの対応となる）
rinri-jafm@a-youme.jp
- 2) 倫理委員会は、コンサルテーションに当たり必要な情報について不足があれば相談者に確認する。
- 3) 相談内容について、倫理委員会のメンバー間で電子メールによるやりとりを通して対応を検討し、1週間以内に相談者へ返答する。
- 4) 返答内容は、直接面接調査を行わない本システムの性格上、判断や診療上の勧告ではなく、倫理的な判断に当たって確認すべき事項や利用可能なリソースについての提案を中心とする。なお、これは家庭医療学会としての公式見解ではなく、あくまで倫理委員会のメンバーによるボランティアとしての活動と考えていただきたい。
- 5) 1年間試行し、1年後にこのようなコンサルテーションをすることのメリット、デメリットを検討し、その後どのような形で継続するか検討する。

若手家庭医部会のロゴマーク募集

日本家庭医療学会をはじめとして、多くの団体はその活動をより浸透させるため、ロゴマークを設定し、運営サイトや配布物に添付しています。若手家庭医部会はメーリングリストの運営、Webの立ち上げ、若手家庭医のためのワークショップの開催など、様々な活動を行っていますが、若手部会でもロゴマークを設定し、Webや配布物などに添付することで、若手家庭医部会の活動がさら

に親しみやすく、浸透しやすくなると思われます。そこで、このたび若手家庭医部会のロゴマークを募集します。

たくさんのご応募をおまちしております。

日本家庭医療学会

若手家庭医部会 啓蒙・後進育成担当 宮崎 景

「若手家庭医部会のロゴマーク募集」応募規定



応募資格：特にありません。お一人様何通でも可。

期 間：2006年7月1日～9月30日

応募方法：電子メール、Faxまたは郵送

宛 先：1) 電子メール logo-wakate@a-youme.jp

件名に「ロゴマーク応募係」と記入のこと。ロゴマーク自体はJPEGもしくはPDFを添付のこと

2) FAX 052-744-2962

名古屋大学医学部附属病院 総合診療部 宮崎景

3) 〒466-0065 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学医学部附属病院 総合診療部 宮崎景

必要事項：あなたのお考えになったロゴマーク、住所、氏名、所属、電子メールアドレス(省略可)

選考方法：応募されたものに対してプロジェクトメンバー内で二つに絞込み、若手家庭医部会会員の皆様に投票いただき、投票結果をもとに日本家庭医療学会理事会にて決定する。

発 表：2006年12月に日本家庭医療学会と同学会若手家庭医部会のホームページにて発表

お問い合わせ先：日本家庭医療学会 若手家庭医部会 啓蒙・後進育成担当 宮崎 景

平成17年度 日本家庭医療学会 研究補助金 選考結果のお知らせ

平成17年度 日本家庭医療学会 研究補助金交付申請につきまして、今回は6名の応募がありました。

研究補助金交付者の選考につきまして、いろいろな角度から慎重に審議を重ねました結果、下記の3名に決定いたしましたのでお知らせいたします。

竹中 裕昭氏 (竹中医院)

林 裕美氏 (地域医療振興協会 公立黒川病院)

宮田 靖志氏

(札幌医科大学 地域医療総合医学講座)

会員専用ページ開設のお知らせ

下記アドレスに会員専用ページを作成いたしました。学術集会のスライド等で、作者の許可が得られた資料などを掲載していく予定です。

また、学会として行いたい活動等ございましたら、会員専用ページより企画書をダウンロードしていただき、学会事務局へご提出ください。

ログイン、パスワードは、同封の用紙をご覧くださいませ。

<http://jafm.org/member/>

生涯教育コーナー



先日家族研究・家族療学会に初めて参加し、家族志向のケアに関する発表を行ってきましたが、その際に面白い心理系の教育システムに出会いました。

プライマリ・ケアの現場では認知療法や家族療法そのものを行うことに、時間的・能力的制限が伴いますが、そのエッセンスを診療に生かすことは可能です。

米国の著名な心理療法家の面接の録画（米国心理学会APA）を1回500円でインターネット上でみることができるのです。現在は開始したばかりで、利用できるプログラムは限られていますが、以下のHPにアクセスすると現在視聴できる内容が10プログラム示されています。

<http://shinri-e.com/>

6歳の児童とのプレイセラピー	ジェーン・アナンジアータ博士	(収録時間50分)
行為障害の子供とのゲームとお話を使った理療法	リチャード・ガードナー博士	(収録時間40分)
思春期の子供との実践的な心理療法	アリス・K・ルーベンシュタイン博士	(収録時間45分)
トラウマ治療のためのEMDR	フランシーン・シャピロー博士	(収録時間53分)
衝動的問題に対するエリクソン派の催眠療法	ジェフリー・K・ゼイク博士	(収録時間75分)
パニック障害に対する認知療法	デビッド・M・クラーク博士	(収録時間51分)
境界例パーソナリティに対する認知療法	メアリー・アン・レイデン博士	(収録時間56分)
嗜癖の認知行動的再発防止法	G.アラン・マーラット博士	(収録時間57分)
強迫神経症に対する行動療法	サミュエル・M・ターナー博士	(収録時間84分)
受動的攻撃的人格障害への対人間再構成療法	ローナ・スミス・ベンジャミン博士	(収録時間48分)
婚外交渉についての夫婦面接	ドン・デビッド・ラスターマン博士	(収録時間49分)
身体的な健康問題を抱える患者との家族療法	スーザン・H・マクダニエル博士	(収録時間44分)

1回500円でストリーミング（Streaming）方式により動画配信を受けるのですが、支払いはクレジットカードやウェブマネー（ローソン、サンクスなどのコンビニエンスストアなどで購入）で行うようです。一部かなりマニアックですが、少なくとも家族療法の内容はお勧めです（家族志向のプライマリ・ケアという家庭医向けの本を書かれた先生でこの6月に日本語訳が出版されました）。

すべて日本語字幕スーパー付きですので、映画を見るように楽しんで、ちょっとだけ心理療法の実際に触れるという感じで利用されればいかがでしょうか？
徐々に内容を充実していくとのことです。

（奈義ファミリークリニック 松下明）



事務局からのお知らせ



メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約800名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけただけから幸いです。

禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）

氏名

勤務先・学校名

メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail：jafm@a-youme.jp

入会手続きについて

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続きについては、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

日本家庭医療学会事務局

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-14 天真ビル507号
あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6447-0900

E-mail：jafm@a-youme.jp

ホームページ：http://jafm.org/

編集後記

今回は家庭医療学会の総会報告や、役員選挙の報告など内容が多く読み応えのあるものとなったと思います。後期研修プログラムの充実と家庭医のさまざまなレベルでの生涯教育の実施、そして評価システムの確立が最も求められている時期です。学会主催のシンポジウムなどスライド内容を会員に提供するシステムが開始することになりました。

家庭医療学会のHPをマメにチェックすることをお勧めします。

発行所：特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局
（あゆみコーポレーション内）

会報誌担当役員：木戸友幸・田坂佳千

会報誌編集担当役員：松下 明

〒708-1323 岡山県勝田郡奈義町豊沢292-1

奈義ファミリークリニック

E-mail：akimat@mb.infoweb.ne.jp